

## 対 談

# 幼 児 教 育 を 語 る



蠟山政道      周郷 博

◆中教審答申案にみられる制度  
について

蠟山 幼児教育界として、中教審の答申が問題になっていますが、必ずしも賛成ではないという声が多いと思います。幼児教育にたずさわっている人として、どういふ点が問題なのか、まず問題点を提出してくださいませんか。

周郷 反対論の中には、左翼イデオロギーとか軍国主義につながるものだという意見もありますが、子どもと家庭と社会の変化、特に子どもたちのおかれている現在の状態を知らないでいっている、というのが反対論の重要なものだと思います。

蠟山 反対をしている人が幼児の状況についてあまり知らないということですか。

周郷 いや、中教審が子どもについ

## ◆対談

での認識が足りない。他人の意見をきいて総合するわけではありませんが、五歳を義務教育にすることと、先導的試行といえますか、四歳児を含んだ小学校までいくんだ幼児学校と二種類ありますね。現在の小学校の低学年が、教育の形態としていろいろと問題があって、教育としてまとまりの悪い事をやって、テストのようなものが上からきてしまい競争的な知識教育というのをやっている状態です。それを下までおろしてくるといふ危険を感じるわけです。幼児の知識の教育、競争状態で知識の教育をやるといふのは、幼児の精神に合っていないということです。

蠟山 それはよくわかります。問題は、今いったように四歳児、特に、五歳児からの問題が重点になっているようですが、それを小学校教育と結びつけるということが、知育教育として結びつけるという意味なのか。中教審は

もっと広く考えていると思うんです。

周郷 だからそうであるとするれば、小学校の教育も変わらなきゃいけないですよね。それがどう変わるかが問題なんです。

蠟山 文部省の考え方の中に知育教育というのはもちろんありますけれども、それに偏重しているとうけとることはどうかと思います。むしろ学校教育の方、学校の現状を尊重して、学校の教師の自主性を尊重しているという前提があると思うのです。だから今知育教育というふうにすぐうけとってしまいうことが中教審の考えだといえるかどうかだな。

そこで根本問題は、四歳児なり五歳児という今の幼稚園の課程がどういう教育方法をとっているかということですね。それがつまり正しいとすれば、それと小学校の低学年を結びつけるということについては、小学校自体に問

題があるからそれを改善しなきゃならないということになるわけです。

それは制度の問題であって、教育方法の問題ではないと思うのです。教育方法の問題はおのずから別だと思うのです。そこで幼稚園教育として何を最も重んじているか、また現行の小学校教育とはどこが違うかという点をもう少し明瞭にしないとけない。

周郷 制度の問題とすれば、五歳児の子どもを市町村が幼稚園を作って入れるということ、義務づけるとか、これはアメリカがやっているやり方で、やり方がよければ、精神がよければ賛成なんです。幼児学校というのもイギリスが主としてやっている方法で、それもやり方がよければ、むしろ望んでいることなのです。その制度の問題としての反対というのはそうないと思うんです。

◆内容はこれから作られる

蠟山 今根本の教育の問題としては、幼児教育としての四歳児ないし五歳児と、小学校の教育と継続せしめるという事で、そこに教育方法上問題があるんで、中教審はそこまで考えていないと思うんです。

教育内容は幼稚園の指導要領というか、幼稚園の教科課程については改善の必要ありといっていますが、その点についてはいくらでも改善できるわけですから、提案してみたらいいんじゃないかと思うんだな。

周郷 反対論でも今の幼稚園の現状維持ということで反対している反対の仕方は、賛成できないんです。幼稚園自体に非常に問題があるわけです。たとえばわたしのところの幼稚園でも今の状態では問題が多すぎるくらいある。したがって今の幼稚園がいいから上か

ら下がってくるのはいやだという意見には賛成しかねるんです。

蠟山 現在の幼稚園の教育方法として、是非ともこれは尊重しなければならぬ、将来小学校と結びつく場合においてそこなわれるようなことがあってはならない点、幼稚園教育として最も重点をおいて実際にうまくいっているのはどういう点ですか。

周郷 正直にいえば、ありきたりの幼稚園教育でうまくいっているといえるところはないように思うのです。

蠟山 今ちょっといわれた、小学校の教育の中にテストでたとえば知育なり知能なりをはかっていくという教育をもっているのがありますね。

そういうことをなにも小学校から幼稚園までテスト教育をもつてくるというおそれがあればそれはいかんということというべきじゃないでしょうか。

周郷 当然それはもつとみんながい

うべきだけれども、中から現状をかえようということはやらないでも間に合っただけやうと、悪い意味で保守的なんですよ、幼児教育の世界は。先生が前にいわれたように、日本では本当に健康な主義はなく、したがって進歩主義というの意味をもたないということをいわれました。けれども、そういう意味での保守的なものは、幼稚園でも戦後欠けてきましたね。日本の伝統的ないいものを保存するということが欠けてきましたけれどね。そして時勢にふりまわされるといいう。

◆人間形成のために

蠟山 四歳児ないし五歳児の問題として、教育が必要とされ、家庭も非常に要望しているわけですね。こういうことがあるのは、家庭教育と幼稚園教育とが共通目標をもって、家庭もまた家庭だけでやらないことを幼稚園に託

## ◆対談

すと、また幼稚園の方も幼稚園だけでいけるわけじゃないんですから、家庭教育と共通目標を見いだして、学校が自主的にどんなやるような、いろんな案を出すということができないものでしょうか。文部省だって教育を実際やっているわけじゃないからわからないはずですよ。

**蠟山** 幼児教育に一番大事なのは安全教育ですね。安全というようなものに対して、交通の問題ばかりじゃなくすべて安全ということに、どう対応していくか、危険に対してどう処していくかといったようなことは、幼稚園教育だけではやれないし、家庭教育だけでもやれない。両方で協力してやらなくちゃいけない。そういった問題が根本にあるんじゃないんですか。たとえば今度は友だちといっしょに遊ぶ、物をつくるにしても、絵を描くにしても、ひとりだけの問題ではなくて、みんな

で協力してやるというようなことがあるでしょう。そういうことは、家庭があつて親との関係だつてありうると思ふし、兄弟があればもちろん、また近隣の子どもたちとも遊ぶということで、これは家庭教育と幼稚園教育、学園教育との協力がなくちゃできないことです。そういう意味で幼稚園教育で今一番重点においているのは、教育方法や教育目標の問題じゃないと思うんです。それは教育者として教師がやるべきことであつて文部省はそれを援助する、助言する、せいぜい助言指導するということ、実際は教育の実際にあつている、育成にあつている人たちの問題じゃないかと思うんですけどね。

**周郷** そういうふうに文部省と実際に教育にあつている人、地域の父母たちがパートナーシップになつてくれれば、それは一番望むことなんです、だいたいの風潮というのを考えますと、

役人は力をもっているんですね。

**蠟山** 役人であるのは制度とか設備とかそういう条件設備ですよ。これが主たる仕事です。しかしただそれだけやればいいというのではなく、何のための条件か、何のための設備かということになると、教育目標とか教育方法との関連がありますから、ただそれを無視して条件を作るわけにはいけません、学校の実状なり教師の考えなりをきかなくちゃいけないと思うんです。ただそういう場合それで一応その参考として一つの指導要領みたいなものを作るとか、最低限度の教育課程を作るとか、最低限度の条件です。そういうことを学校学園の自主性を奪ってしまうものだ、教師の創造性も自主性もなくなってしまうというような、考え方は間違っているんじゃないかな。

教育自身の目標が中教審自身がいつ

ているように人間形成ということで中心をおいているので、人間形成とは、人間の自主性と創造性を尊重して育成し発達発展させしめていくということでしょう。そうすれば、たとえば変化に對して対応するしかたとか、そんな危険というものに対して対応していくかということが含まれるわけです。それはだんだんの方まで知識が向上するあるいは社会意識がどんどんひろまっていかなけりやできないことですね。とにかく幼時の時からそういうことがあると思うのです。ちょうど親がいろいろの、たとえば食事の後のお皿洗いをするとか、きれいにするとか親が熱心にやれば、子どももやりますよ。

**周郷** 現在の人間の家庭での住み方と、社会での住み方全体がたいへん変わっちゃいます、そういうことをやらせないわけですね。全然どこもやら

せないかというところ、そういうわけじゃありませんけれども、この間違った話ですけど、幼児たちが家庭で話しているのを見ると、年とったじいさんばあさんがいるみたいに、遊び場がありませんから、家の中で何か食べながらテレビを見て、小さい子どもが話している。それを見ると七十ぐらいの年寄りが集まった気がするという意見をききましたけれども、そういうふうな生活が変わってきて、親がなんでもやっちゃって、そして勉強に勝つ、競争意識でい学校に入れようというように考えているわけですね。

**蠟山** それは親の価値観が狭いんですよ。だから、親が社会意識、社会の通念として学校を出ななきゃだめだとか、試験に合格しなきゃいけないだろうというのをやらせるけれども、人間全体の立場からみて、また個人の一生の問題からみて、学校にあがるための勉強をしたということが、どれだけ人間の力をつけるかということですね。子どもがテレビを見て遊びたい、遊ぶ時間をもちたいと思つて、親のいうことをきかないという時に、親の考え方が正しいといえるかどうか。適当に子どもだって遊ばなくちゃならないし、その勉強と遊びとをうまく調和させるということとは、親の教育方法としては正当ないき方じゃないですか。勉強一途にやるということは親がまちがっているということ、先生からたとえば父兄会あたりがあつたら話し合つてみたらいいんじゃないですか。

**周郷** それはやってますけど、今度もそれをきちんとやろうと思つてますけどね。

わたしとしては、本当に幼児教育という大学とかなんか比べればまだ小さいことにはちがいないんだけど、この子どもたちの教育を通じて、日本

## ◆対談

が今世界の中で本当に日本の未来の目標をもって教育しなければいけないなあとと思う。そうでなければもう教育の状態は混乱した状態で、先は心配で心配でしようがないという状態なんですよ。

蠟山 幼稚園だからというんじゃない、大学あるいは社会教育を含めて一番大事なのは、個人的考え方なんです。それが教育の目標になると思うんですけど。時間がたてば大きな変化がその中に含まれているんで、変化というものに対応する力を養うというのは、単に知識だけの問題じゃありません、度胸の問題もあるし、また計画の問題もあるし、いろいろ創造的なものが働かなくちゃならないけど、とにかく変化に対応する教育ですね。それは環境によって、また年齢段階によつてずいぶんちがうと思うけれども、それが一つだろうと思えますけどね。

周郷 変化に対応する教育ってのは知識教育よりも、もっと基本的問題ですね。

蠟山 行動ですよ。たとえば交通安全の問題などについてね。自分のからだに合わない自転車に乗ってはいけないということとは、具体的な問題ですけど分析してみれば、いろんな意味を含んでいると思いますね。力と不相応なことをやれば非常に危険がはらんでいるわけです。だから自分の力は何の程度のものであるかということを意識する必要がありますないけども、行動の上で直覚できるというような教育が安全教育の本当じゃないんですか。

周郷 そういう本能とのかからだの教育、直感力、直感的判断というようなことを重要なものと考えて幼児教育はやらなきゃいけないわけです。

蠟山 集団行動をすると、自分一人でやり、自分で責任をもってやらなく

ちやならない場合もあるけども、みんなといっしょになってやる。したがってかりに自分の考えが間違つたとしても知識の問題じゃないですよ。行動ですよ。自分の考えは違うけれども、多勢のみんなが賛成したことにについては、自分も考えなおしてみるというような意味で集団行動に参加するということが、集団行動というか、集団訓練は非常に大事じゃないかと思うんですよ。

周郷 一方では日教組なんかが中国の真似をして集団教育なんてことはやりますね。幼稚園で集団っていうと昔のやり方になつちゃうんですよ。笛なんかで、軍隊とはいいますが、集団を都合よく動かす、という訓練になつちゃうんです。そこでずいぶん意味がちがっちゃうんです。これは人数が多いとなりやすいですね。やっぱりどうしても人数を少なくして、どの子も人格として育つことができる状態をつ

くらなきやなりません。

蠟山 そこで制度もしくは運営の問題に変わりますけれど、今の幼稚園の学級数と一学級の定員の状況はうまくいっていますか。

周郷 それがひどいのですよ。政府が決めたのも四十人で、四十人に一人の先生なんですよ。

蠟山 そういった制度上の問題を中教審はとりあげているわけです。それに対しては対応策を実施推進本部でやっていますね。もう案をつくっていますよ。

周郷 そういうことで政府が金を使えるようにしようというなら全く賛成です。

蠟山 幼稚園の問題については、これからは今まで三分の一位しか補助しなかったのを二分の一にすると、東京の近郊都市なんかには人口の急増地域がありますから、そういう場合には三

分の二を与えようといっていますからね。

そういう条件や整備の問題はこれから努力すべきところで、これは政府の本来の仕事ですよ。

周郷 政府のやることはひもつきのやり方だという気持が国民にはあるんです。

蠟山 それは民主主義が未熟だからですよ。どんな意見をのべるべきでいますしね、ある場合には強化されている面がありますけどね。知識とか技術とかが管理社会になっていきますから、それに対抗していくような意味で住民と家庭というようなものが、たとえば母親が勉強して堂々と反撓してもよいし、また要求してもいいんじゃないですか。それが本来の民主主義だと思うんですよ。一方住民不参加ということをかきかんにいってんじゃないですか。公害問題を契機として一層提起さ

れてきています。

### ◆自然と幼児教育

周郷 幼稚園というのは公害問題と関係が深いように思うんですよ。たとえば遊び場がなくなっちゃうとか、遊ぶ所をすべて危険なものが走っている、自然は破壊されちゃってる。やっぱりそういう場合に子どもはいろんな設備ばかりよくして教育しても、自然からきりはなされていると、子どもはどうか不満が残っちゃって、育つ資質が欠けてくるように思うんですよ。子どもたちには健康な自然とか川の流れを確保してあげたいし、自転車でのりまわすような道を確保してあげたい。それがあればかなりのパーセントの教育的な役割を与えるという。自己教育というのを子どもはやりませんから。

蠟山 それが同時に単に教育の方からだけでなく、子どもの遊び場の問題

## ◆対談

とか、児童公園とかいうことが叫ばれていると思うんです。そういう環境から受ける影響は大きいですからね。

周郷 家庭もまた変わってしまいましたがからね。日本みたいにマッチ箱みたいな家にみんなはいっちゃうし、子どもたちの人口移動がはげしいものですから、友だちがなくぼつんとしてい

るんです。  
蠟山 その点我々は田舎に育ちましたから、水も緑も十分にエンジョイしてきましたからね。そういうことは都会の子どもたちには非常に足りないです。現在の状況のものでできるだけ補うようなことは親がやらなくちゃいけないと思うんですよ。

周郷 今その問題は、東京みたいな大都会になりますと、自然の所に出かけて行くより外ならないですよ。途中が危険ですが、一晩位親からはなして、山や海のそばで泊るんです。一

度やりましたけど、それ一度やると、子どもが変わってくるんです。しっかりしてくるんですよ。セルフ・デペンデントになるんです。他人にデペンデントじゃなくてね。

蠟山 小学校や中学校の場合は移動学校や移動教室とかいってますが、そういう移動すべき場所を幼稚園でもっているのが相当ありますか。

周郷 あるとすればそれは私立の幼稚園の方がもってるんですよ。お茶大なんかないんで、私立のをかりてやろうとしたりしてるんですけど。前に聞いた話で都会でずっと育った子を田舎につれてって星空なんか見せると、きもち悪いっていうんです。きれいだとはいわないんです。空に穴があいてるようだと。しかし小さい子どもってのは本来はお星様がキラキラしてるのきれいだと思うはずでしょう。そういう所がぬけおちてしまった場合に、人

間形成ができるでしょうか。

蠟山 そのことは大都会の子どもにとって特に重要な問題ですね。いかにしてそういう所に安全につれていくことができるか。時々そういう場所につれていくようなマイクロバスとか移動バスとかみんながそなえている必要がありますね。

## ◆このごろの子ども——自己主張

周郷 さっき集団といいましたけど、そういう所に行くと、集団が健康な形でできてくるんですよ。都会の中になるとおかあさんがイライラしている状態なので、おかあさんのイライラが子どもにうつりますからね。集団にするときわがしくなっちゃうんですよ。だから、あの子にはできないけど、できないから助けてやろうというじっくりした中身のある集団にならないんです。自己主張がとでも多いんです。自分を



目立たせようとする行動ばかりするんです。

園長になって驚いたんですけれど、山につれていって星空はきれいだと宇宙の話をしていると、三つの子どもみんな手をあげて知ってる知ってるって言うんですよ。がっかりしましたね。こんな小さい子でどうしてこう自己主張を軽薄にしなきゃいけないんだ。それは途中で大分変わってきたけど、知ってなきゃ損するという気持がどうしてああいう小さい子にすでに出るのかと思いましたね。

蠟山 それはみんな今の民主教育というか自分という考え方が先になりましてからね。己れがということになって、そこがおとなでいえば権利の問題とすぐ結びつくことですね。しかし権利というのは他の人も権利をもっているという。

周郷 そこは省いちゃうんで。

蠟山 それと同じで子どもだってめいめいがみんな自分つてものをもっているわけですからね。そこにおのづから自分を発揮する場合と、みんなの意見に従う、あるいはみんなの意見をきく場合と二つあるわけですね。

周郷 今の話ですが、この間こう考えたんですけど、たとえばテレビというのは子どもを相手にする、子どもを使って品物売りつけようというコマ―シャル多いですね。テレビに出ていろんなおしゃべりするタレントが出てきますね。おしゃべりが商売になっている時代であると考えました。テレビから出てくるわけでしょう、かっこいいわけでしょう。子どもはこの影響をうけて非常におしゃべりなんです。

蠟山 おしゃべりということは必ずしも賛成しませんけどね。自分の考えを適当にうまく表現できるということ

は必要じゃないでしょうか。これは広い意味での言語というか言葉の教育として。

周郷 その問題はテレビから受けている影響ですから、自分の考えをのべているんじゃないんです。かりもののいろんな言葉をつかってするわけです。幼稚園での言語教育は、話すという日本語の教育が基本になると思うのです。自分の考えをのべることができる日本語を使えること、こなせること、それがちつとも出来てないです。

蠟山 そいつはなかなかむずかしい問題ですね。先生自身の問題でもあるんでしようね。

周郷 先生の子どもの扱い方と、子どもに語りかける語り方なんですよ。

蠟山 それは教育全体についていえることでしょね。私は大学教育以外あまり経験ありませんから、適当に自分の言葉として自分が理解した言葉と

## ◆対談

していいんですけども、どうしても、どうしても急に読んだ本から学んでああこりゃいい表現だなという意味ですぐ使ってしまうって、本当にまだそれが一般に伝わってすぐそのことを使えばできるかということまで考えないで、すぐ教室なんかで使ってしまうことがありますからね。それは言葉の用い方というのは、すべてのものに大事なものです。周郷 日本人が、そういう性質の意味がある教育というのを、本来もっていませんでした。

蠟山 それはなかば家庭の問題ですね。

周郷 しかし同時に幼稚園の問題だと思ふのです。

蠟山 そりゃ家庭と幼稚園と両方ですね。

周郷 今メキシコから幼児教育を七年やった留学生が幼稚園に来ているんです。英語が話せるんですが、ポルト

ガル語でしょう。これは先生たちに非常にいい影響を与えていると信じているのです。日本語が少しはできるんですが言葉が通じないですね。そうすると表情で話を合わさなくちゃならない。幼稚園の先生なんか表情が足りないわけですよ。すると表情というのは、身ぶりや言語が通じない場合いかに重要な言語なのかということを生先生たち理解しかけたと思つて、これはいいなあと思つているんですよ。

蠟山 それは特殊教育の場合でもそうですね。

周郷 特殊教育の場合ならなおでしょう。特殊教育の場合なんかの方が、むしろ本当の意味の言語を教えているような感じがするんですよ。

## ◆「個性の尊重」の考え方

蠟山 小さい子どもにも得意なものがそれぞれあると思うのですが、大事

なことは、その一つにすぐれていたからといって自慢にならないと思う、他のことでは劣っているかもしれないからですよ。今度の中教審の問題でそういう個性の尊重とか個性をのばしていくということについて、これが優秀なものなんだと文部省はみているんだというようにみて、反対がありますけど、そうじゃないと思うのです。人間は人間全体としていろんな多様な性格をもっているわけですから、そのうち何かにすぐれているものがあっても他に劣っている点がありますから、特徴があるからといって人間が偉いとか偉くないとかいうことではないと思うんですよ。

周郷 その問題は日本の国民性と関係しているんじゃないですか。フランス人がいつていましたけど、ヨーロッパでは幼児教育の段階に、数学とか詩の教育をもってきたと思うんですよ。

詩はむずかしいけれども音楽だからわかる。これがないと国語にならないと思ふんですよ。だけどそういうものをもってきた場合に、できるからといって自慢にはいけないということが原則にあるんですよ。これは日本だとちょっと出来ると自慢する。

蠟山 そこですよね。人間は本質的にはみんな平等なんだということだね、個性は大事だから、何か特殊の素質をもっていたらそれをのばすことはけっこうなことだ、だけどそれは自慢にはならないんで、そういうふうにして教えることもできるんじゃないでしょうかね。

周郷 先生までわたしの組はという自慢をするわけです。そういうのが現状ですよ。高校だと東大に何人入れるかというのが先生の唯一の自慢で、なにかみはあまりない。こういうへんな状態が幼稚園にもあるわけですね。

蠟山 これは社会構造が、明治時代

から最近までそういう傾向があつて、今も続いているかもしれないけど、これからの人間にとってそういうどの学校を出たからいいというので自慢するであつたら、たいしたことないね。

周郷 みんなちつともとりえのない、おもしろ味もない人間になつちゃうと思ふんですね。

#### ◆制度に対する考え方

周郷 今の日本の教育には制度は大事ですけど、人間というものについて哲学的なみかたも、いい意味で、建設的な意味での哲学が足りないという感じがあります。

蠟山 制度というのは、ある目的を表現するためにあるわけです。と同時に拘束力をもっていますからね。その拘束力の方が強くなるのです。

周郷 そっちの方が国民は強く感じ

ちゃうわけです。

蠟山 何のための制度かということを考えればある目的を到達するための手段だ、ところが制度が目的みたいになつちゃう。

周郷 戦前の日本人の意識行動と変わつていけないといけないわけです。

蠟山 ことに文部省が決めたものは絶対に服従しなきゃならないという考えは明治時代にはあつたかもしれない。しかし今日は十分経験的に実験的にやってみたらいいんだ。文部省のものを参考部分としてそれに従つてやってみて、うまくいかない点は制度自身に問題があるのか、自分のやり方が悪かったのか、いろいろ研究してみるなりするならいいんじゃないですか。

周郷 日本人の意識行動に今日ここにこういうのがあるでしょう。だれか他人が悪いんで自分が出来ないんだという、何か他人に責めをおわせておいて、

## ◆対談

自分をかばおうという気持ありますよね。自分が責任をしょって出ようという気持がわりにはいいですね。

蠟山 客観的にみて他人のせいであるかもしれないけど、しかしすべての場合に自分のせいじゃなくて他人のせいだというのは間違いですよ。自分が足らなかった場合もあるかもしれないから。

周郷 それからもう一つは責任を問われたくないという特殊な安全への欲求があるんですよ。自分で考えないことにするんですね、政府がいつているから。

蠟山 まあそういうふうに安易に追隨していくということは責任のがれです。

周郷 文部省も考えていて、日教組も考えていて、国民が世界の激動という大きな変わり目の中で、日本の未来というものを目にみえない形でつみ

上げていくのが教育ですからね。

蠟山 ただその目的に一致がない。それを政府がね、あるいは文部省が追求していったらそれはいけないと思う。そこに制度、目的に混乱があってもしかたがないと思うんだ。混乱はあってもそこにおのずから一つの効果が見いだされるかもしれない。

周郷 望みをかけて話し合うべきところがあ

蠟山 だから学校の先生は自主性をもって自分の教育に関する教育観というのをもって、それこそ使命感をもった専門職じゃないですか。

周郷 やっぱり大学の教授たちが使命感を本当にもっているかという、疑問でしょう。

蠟山 文部省はね、学校の先生たちは専門職だといながら、日教組あたりにはいわせれば指導している。それは矛盾ですよ。専門職だからある程度自

主性を尊重しないではいけない。ただ国家の立場があると思うんです。世界社会ができてきたあるし国際的環境はどんどん変化しているしね、国家っていう存在は国家共同体というか国民共同体は存在してるんです。ある目標、国民が一致する目標があってもいいと思う。それをただ政府だけが決めるわけにいかないと思う。

周郷 そこが疑問ですね。政府が決めているという感じがありますよね。

蠟山 政府も一つ考えをもって責任はあるけどもそのままやれない。問題がいくらでもある。そこで議会というものがあるんで、また国民の世論があるんですから、国民の世論を認めない政府は民主的な政府ではないわけですよ。

周郷 ずっと前先生から聞いたことだけど、国内の問題についてはいろいろ考えがあって争っているけれども、

対外的関係においては争ってはいけな  
いんだ、国民は一致する必要があると  
きいたことがあるんですよ。

蠟山 それも時代により一致がある  
べきである。ナショナル・コンセンサ  
スといって、国民的合意があるべきだ  
と思うんです。ことに外国の問題につ  
いてはね。ところが国民の階層によっ  
て見方が変動しますから、大変違う問  
題があると思うんです。一時混乱する  
ということとはさけられない。しかしそ  
ういうものがなくていいということに  
はならない。ナショナル・コンセンサ  
スというものがなければ外交政策がな  
りたないわけですからね。

周郷 日中国交回復なんて問題は、  
非常にからんできていますね。

蠟山 やがてある程度のところまで  
混乱は続きますけどね。ある時期に到  
達すれば一応できますよ。とにかく今  
戦後二十数年たちましたけど、ほぼア

メリカとの関係においてアメリカの方  
針に従えばいいという前提の中には冷  
戦状態があったわけですね。ところが  
それが解消するか変動しつつあるわけ  
ですよ。そこで根本がくずれたわけ  
ですよ。アメリカに従っていればいいと  
いうのでなく、アメリカ自身が大きく  
変わって、そういったものが混乱を一  
時ひきおこしますけどね。

我々は変化に対応していかなければ  
ならない。それが教育の根本じゃない  
かと思うんですがね。

#### ◆道徳

周郷 おととい神谷美恵子さんて前  
田多門さんの娘さんと対談したんです  
けど、あの人はよく考えている人で  
からいろんな話がでて、日本人には善  
悪というものの判断があまりなくなっ  
ちゃったんじゃないかというね。自分  
に得なことは善であって、損なことは

悪であると極言してもいいくらい道徳  
的な考え方というものがなくなっ  
たんじゃないだろうか。実際、子どもたちそ  
うなんですよ。

また文部省も教育内容道徳教育をや  
るとかいいましたけど、やっぱり日本  
の小さい子どもに道徳的なことをやっ  
たという満足を味わわせたいという気  
があるんですよ。

蠟山 道徳というものはなくちゃな  
らないと思うけども、何が道徳である  
か、何がいいことであるか、どれが悪  
いことであるかということを決断する  
わけにいかない問題がいくらでもある。

それはしょっちゅういつてることな  
んですけど、個人の利益と公の利益と  
いうものが、当然両方あっていいと思  
う。しかし何が公の利益であるか、そ  
れと個人の利益とがどう関係するかと  
いうことは、常々動揺していると思う。  
それは独断すると政府権力をにぎって



◆対談

いるものが、公益を代表していると思  
ってしまふ。こりや間違いです。

しかし政府自身は公益というものを  
追求するためであり、公益に従ってや  
れるんだと、慎重にやるんだったら存  
在理由はある。公益というものは政府  
を越えて存在しているんであって、教  
育もそういう意味で公教育といってい  
るんだ。

周郷 へんな意味でとっちゃうもの  
ですね。公教育ってのは。

蠟山 公共団体が経営しているとか、  
国家が経営しているとか狭い意味でと  
ってるけど、むしろもっと奥深く考え  
ればおおよくの教育なんで公共のため  
の教育なんだ。

周郷 やっぱりそういう感覚で幼児  
の教育までいってこなければいけな  
いんで、外国人からみたら実際日本の  
子どもたちは行儀が悪いですよ。ぶ  
つかったってなんともあやまらないし

ね。

蠟山 少しずつ改正しなければなら  
ない一つの点はお行儀の問題である  
と思います。何もそれは窮屈に考えるこ  
とはないと思います。おのずと人間に  
は自然の姿があるんだから公衆の間に  
立っている時は何をしたらいいか。た  
とえば往来で平気で唾をすることはよ  
くない。それは自分だけが通る道でな  
く、すべての人が通る道なだからと  
いうことを考えて、そこに痰壺がある  
かどうか見、それがなければハンカチ  
を出してというくらいのつつしみがな  
けりや公共精神というのはいない。それ  
はジョン・デューイの有名な言葉です  
よ。

周郷 何年か前は、人が見ていない  
所ならやってもいいといっていました、  
このごろは人が見てたって何やっ  
たていいというのだから。

蠟山 これはこんどの中教審の序論

の中にあるんですよ。公共心の自覚と  
いうことがね。むずかしい問題ですけ  
れどね。学校だけの問題じゃなく家庭  
のしつけにも関係がありますけどね。

周郷 やっぱり小さい子どもの時そ  
ういうものを教えなきゃならないと思  
う。外国人がよくいうように、日本ぐ  
らいおかあさんが子どもをあまやかし  
なんでもやらせている所は世界中ない  
んだということも、本当だと思ってい  
ます。

蠟山 それは叱ることよりはむしろ  
自分で範を示せばよい、子どもは自然  
にわかると思いますよ。

周郷 そういうふんいきをつくらな  
きゃ。その上で叱ることがある。親が  
叱るばかりでなく、ほかの親もその子  
が悪いことをしたら叱らなきゃいけな  
いんですよ。

子どもたちは甘やかされているんだ  
けども、甘やかされたり機嫌をとられ

るのを好んでいませんね、本当は。前におこったことがあるんです。わりと子どもは喜びますよ。

蠟山 本主に先生が正しくみて誠意をもって叱るなら、叱られた時は憤慨しますけどね、あとから考えてみてあの時叱られたことはよかったなあと思つてゐることは、小学校、中学校時代の記憶として、五十年も六十年たった今でも覚えてますね。やっぱり叱ると自身が叱るために叱るんじゃないかと、本主に本人のたを考へて社会のたを考へてやつた正しい叱り方ならば、叱るといふことは悪いことじゃないですよ。

周郷 身体障害者なんかもひどいようでないのは入れてあげていっしょにおく方が、子どもは道徳的になると思ふ。

蠟山 だから幼児教育特殊教育の問題はおそらく中教審の問題の最初にと

りあげられる問題じゃないでしょうか。

周郷 あれで完成してゐるわけじゃない、あの問題をもう少し考へていくといふことですね。これをやるのはむずかしくて先生たちは面倒なことをやりたくないというふうな気があるように思ふんですよ。

蠟山 だからいろいろの方面から意見をきいてゐるようですけど、遠慮なく文部省に対して意見をいうといいと思ふんですよ。

先導的試行についてもいい所と悪い所を本主に明らかにするのが試行なんですよ。錯誤になるかもしれないけど、こういう機会にいろいろ工夫して創造性を發揮することもできますよな。

(記録・菊池 文責編集部)

——ある晩秋の午後、周郷先生のお供をして、元お茶の水女子大学学長蠟山先生のお宅にうかがいました。あらかじめくわしい地図をいただいていたがら道に迷つて、お約束の時間を過ぎてしまった私共を、先生はご門の前に出られて、待つていてくださいました。

「そちらの企画としてはどういふことを考へてゐるのですか」との蠟山先生のお尋ねで、中教審の答申も出されたことで、いろいろ問題も多いであらう一九七二年の幼児教育について、というふうなことを、と申しあげました。やはり中心はこのことになりました。

理路整然とお話しになる蠟山先生、お話しになりたいことがあふれ出てくるといったようすの周郷先生、それぞれおそばでうかがつてゐる私の胸にひびくことばかりでした。——(赤間)